



k d g b s k

d k g す y r

自分で書いた短編  
小説いろいろで

田中圭

僕は今日図書館でおかっぱの女の子を見た。その女の子は今まで見た中で完璧なおかっぱで、僕はその子の名前を法務局に行って勝手にオカッパに変えてあげようかと思った。どっちかということその子のお母さんのほうがお願いすればさせてくれそうだったけど。でもその子の名前をおかっぱに変えたら学校でイジメられるかもしれない。そう思うとかわいそうになったのでやめた。その子は小学校4年生ぐらいの子だった。今度あったら頭をなでて大人みたいな態度で「おまえ、ほんとにおかっぱだな」って言おう。そうするとその子は涙を浮かべて「うん」と一言、言うと思う。僕は今日図書館で完璧なおかっぱの女の子を見た。

「元気ですか？もうあれから3ヶ月たってしまったのですね。最後の時は、、、本当になんていうか、、、とても書けそうにないので書かないことにしますね。あなたは私がなぜあなたの元を去ったのか聞いたかったようですが、もう本当のことを言っています。ただ単にお金です。経済力です。ご存知のとおり私には一人息子がいます。21歳のときに生んだので今中学2年生です。将来のことを考えるとあなたではとても高校の入学金や、大学の学費を払えそうにありませんでした。あなたはアルバイトで、、、とにかくあなたのことが嫌いになったわけでも、あなたが悪いわけではありません。最後の時にはとにかくつらくて言えませんでした。私はそんなにきちんとした女でも、あなたのように粘り強く何を言われても気にならないような性格ではないのです。とにかくこうなってしまったことはとても残念です。今後あなたとは連絡を取らないようにするつもりです。このメールで最後にしたいと思います。幸せになることを祈っています。私なんかいろいろなとありがとうございました。さようなら。」

僕が橋を渡るときいつも思うのはもし次の瞬間に橋が壊れてしまったらどうなってしまうだろうということである。そこには人類の希望や、英知や知識の結集がある。もし橋が壊れてしまったら悲しむ人がたくさん出てくるだろう。橋を作った業者や、近所の小学生、テレビニュースなんかでも流されるかもしれない。とにかくにも僕が言いたいのは橋というのは人類希望の象徴みたいなものであるということだ。それは僕や君が思っている以上に人類の知識とか技術力の高さとか誇りとかあとなんやらかんやら、たくさんのもを含んでいるものなのである。テレビニュースなんか出されるかもしれない。小学生は涙にくれ、悲観的な女性は泣き崩れて1週間は立ち直れないかもしれない。あなたがこの文章読んでピンとこないのであれば、あなたは橋のすばらしさがわかっていないのである。もし機会があれば橋の下で橋を下からじっくり見てみて欲しい。一度でいいから。そこにはコンクリートの力強さや作った人のこだわりや曲線美というものか本当に力強くあらわれている別に手抜きをしようとおもえば曲線なんて作らなくてもいいし、街灯なんてつけなくてもいい。いつだって橋を渡ればロマンチックな気分になれる。昼は川。夜はライトアップされた橋の雰囲気。そして、行き交う人々。人、水の流れ、車、橋はいろんなものを流しているんだ。夕暮れ時の橋なんてとってもロマンチックで恋人と歩いてみたい気がしないような気がしないでもない。夜通ったっていい。そこには橋を通る人のためにライトアップされた、蛍みたいなたくさんの光や、ゆきかう車のタンゴにあふれている。とにかくまあ僕が言いたいのは、世の中は橋を通るたびになんて素晴らしいんだって思う人間もいるということである。

ピカチューの世界はけっこう厳しい。20歳までに電撃を出せないと、スーパーの肉売り場にパック詰めにされて火曜の安売りセールで売られてしまうのだ。ピカチューの肉は鶏肉に似て結構おいしいらしい。僕は食べたことないけど。

(`ω´\*)oﾌﾟﾝｽｶﾌﾟﾝｽｶ！！

---

---

夏暑すぎwww

なんだか気分がGOODだねえ ^ ^ ~~~~~ ( \*m・ω・m)ノ~☆・°+。\*°・.

最近はおかしが主食です☆

まままあままああまm(\* ^ \_ ^ \*)//ooooooooo>>>>

お腹が空いたっぽ☆

文章書くのめんどくさいYO。

orz

※夏が終わったZOo(`ω´\*)oﾌﾟﾝｽｶﾌﾟﾝｽカ！！

(:(・ω・\*))



こないだな、本屋にな、いったんよ、

---

こないだな、本屋にな、いったんよ、そしたらな、店員にな、め  
っちゃかわいい子がおってな、そのこにな、ちゅうしたりな、抱  
きしめたりな、したかったんやけどな、そういうことってあるや  
んかあ、そしてな、今度その本屋にいったらなあ、こんにちはと  
かな、好きですとかな、言ってみようとおもうんやわあ。いまま  
でな、そういうことって何回かあったたんやけどな、はずかしい  
しな、もしだめやったらな、そのお店にいきずらいやんかあ、け  
どな、もう27になったしな、ちょっとな、こんど行ったらな、  
そのひとにな、いってみてな、もしな、どっかにな、あそびにい  
くことになったらな、自分からちゅうしてみようとおもうん  
やわあ。



僕はTVをつけようと思った、、  
つかない。もういちどつけようとした、、  
つかない、、まあいいや。人生とは思い通りに行かないも  
のだ。

とりあえず胸ポケットからタバコをとりだし1本吸った。  
ふう、、でも、まあ、今頃あの子はどうしてるかな？  
はあ、、あの子とHしてえなあ、、でもあいつ結婚してんだ  
よな、、

TVの方をチラッと向く、、TVはついていない。

無理に何かをしようとするとう壊れてしまう。

TVもあの子との関係も。

ちょうどたばこが焼けおちる所で僕はあわてて火を消した。

ところで保険に入りませんか？

---

とある朝、とある時間に知らない人から僕の携帯に電話がかかってきた。人生とは不本意な出来事の連続であると言ったデレク・ロバートフォードは正しい。しかし、この文章の主題はデレク・ロバートフォードではない。

とある朝、とある時間に電話をかけてきた、とある男のことである。

「ここってどこですか？」

「えっと、、日本です。」

「そうですか。分かりました。ところで吉野家の牛丼って食べたことありますか？」

「いえ、、ありませんけど、、」

「食べたことない？そりゃ残念だ。人生を損してますよ。あなたは。本当にうまいんだあの牛丼は。吉野家の牛丼のうまさったらない。」

「はあ、そうですか。」

「ところで保険に入りませんか？」

僕は僕は保険という言葉聞いた0.5秒後ぐらいに電話を切った。僕はおもむろにテレビを見たくなくなった。なんだかそんな気分だった。しかし、流れていたTV番組は無意味で価値のないものだった。僕はTVを消して、一眠りすることにした。



( · e · )

---

---

( · e · ) < 暑いですね。

( · e · ) < 明日は何日ですか？

( · e · ) < 機能何を食べたか思い出せません。

( · e · ) < 今日は何曜日ですか？

( · e · ) < 日本の財政が不安です。

僕は今日28になった。

僕が小学生のころがあった事が信じられない。

本当はまだ14歳の気がする。だけど、僕は28だ。正真正銘の28歳になった。何人の女が僕の人生を通り過ぎ、ほとんどの人と同様に夢は結局叶わなかった。僕の人生は一体なんなのか??

## 文章を書くことはセラピーになるか？

文章を書くことはセラピーになるか？これが本書の主なテーマである。セラピー、癒し。そもそも癒されることなんてあるのだろうか？少なくとも僕は文章を書いたって癒されることなんてない。じゃあなんで文章を書いているんだ????

## とある魚。とある店舗。

僕が昔働いていた店がある。その店はチェーン店で、東北からきた店長が働いていた。もちろん僕も働いた。

その女は僕が他の女と話しているだけですごく不機嫌になっていたのに、

魚。魚になって海を泳ぐ。

その店で付き合いたい女は結婚していた。僕は魚になる。

僕は今日28になった。

そもそも、僕の20代は何だったのだろうか？

そもそも、文章って何か、小説って何かっていう問題がある。

## 県立図書館の受付の女

県立図書館の受付の女は僕の人生において大きな位置を占めている。なぜか？→本当にきれいだったからだ。なんどか行って、手紙を渡したと思う。しかし、お笑い芸人がTVで言っていたように、「美人は性格が悪い」

その言葉どおり電話はかかってこなかった。しかし、その女は本当に美人だった。

## 薄暗い雲が9月を連れてくる。

夏が終わり、秋が来る。人生に意味なんてない。結局僕が28年間探してきた答えはそれだった。何を思えばいいのだろうか。何を言えばいいのだろうか。とにかく9月になる。世界は秋を連れてきた

。

## 夜車で走る

夜、暗い中を車で走る。本当は海の中を泳いでいるのかもしれない。深海を深い海の中を泳ぐ。そう考えると魚になって泳ぐイメージも素晴らしい物に思えてくる。いや、僕らが魚なのかもしれない。本当は神様は僕らに魚と名付けるつもりだったのだけれど、



今は夏ですのでセミが夏のうたを歌っています。季節はいつも僕をバカにするのですが、もうなれてしまいました。

パブで「マンション、廃墟、パンと月」という短編小説が9作品入っている作品を販売しています。

文字数は11.094字で、価格は400円です。村上春樹の短編が好きな人には楽しんでもらえると思います。